

滋賀県競技力向上基本計画 (概要版)

目標

計画の着実な推進のためには、明確な目標の設定が必要と考えられることから、滋賀県競技力向上基本計画の目標を

- 第79回国民体育大会における男女総合優勝である天皇杯獲得

とします。あわせて、以下の2点を目指します。

- 平成27年から平成36年までの10年間にオリンピック・パラリンピックなどの国際大会に出場する本県出身の選手30人以上の輩出

- 国体終了後も本県の競技スポーツの発展に努め、国体を契機に高めた全国トップレベルの競技水準の定着

これらの目標達成に向けた取組を通じ、県民が夢や希望を育み、活力ある元気な滋賀を実感できる、幸福で豊かな共生社会の実現を目指します。

本県の競技力の主な現状

- 第68回国民体育大会（平成25年）の天皇杯順位 40位、天皇杯得点 763.8点。
- 全国高校総合体育大会 入賞数 20、全国中学校総合体育大会 入賞数 21。
- 滋賀県出身のオリンピック・パラリンピック出場者数、過去5大会で17名。
 <<トリノ：1名 北京：5名 バンクーバー：2名 ロンドン：7名 ソチ：2名>>

段階的目標

平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年～
10年前	9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開催年	開催後～
長崎	和歌山	岩手	愛媛	福井	茨城	鹿児島	三重	栃木	佐賀	滋賀	
オリンピック パラリンピック	リオデジャ ネイロ		ピョンチャン		東京		未定			未定	
滋賀県競技力向上対策本部（仮称）											
準備期			充実期			躍進期			天皇杯獲得		定着期
強化拠点の構築			アスリートの育成			アスリートの実力向上					競技水準の定着
指導者の確保			躍進期の選手育成を支える指導者の確保			強化スタッフ体制の確立					
国体目標点数：1,000点			国体目標点数：1,200点			1,500点 1,600点 1,800点			2,400点		1,200点
国体目標順位：20位台			国体目標順位：10位台			10位以内 8位以内 5位以内			優勝		15位以内
インターハイ入賞数：30			インターハイ入賞数：40			50 60 80			100		50

選手が伸びる

課題

- 優秀な選手が県外に進学する
- 成年選手が競技を継続できない
- 明確な目標が選手に必要
- 女性選手の競技継続が難しい
- 障害者スポーツの選手確保

対策・取組

選手の育成強化

- ①ジュニア選手の発掘・育成・強化
- ②成年選手の育成・強化・確保
- ③オリンピック・パラリンピック候補選手の活動支援
- ④女性アスリートの育成・強化
- ⑤障害者スポーツの普及・選手の拡大

選手を伸ばす

課題

- 指導者の高齢化・指導者不足
- 指導者の資質向上
- 組織的な指導体制の構築
- 女性指導者の不足
- 障害者スポーツの指導者不足

対策・取組

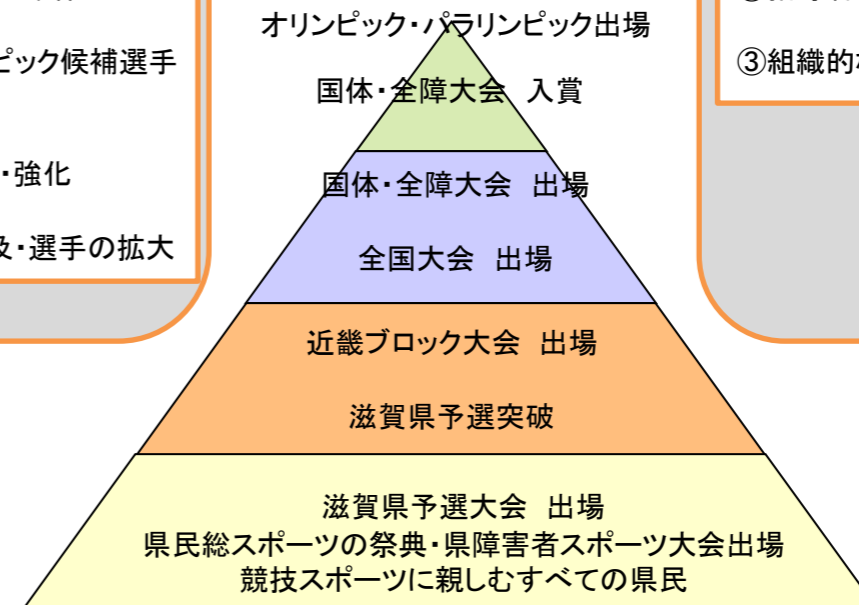
指導体制の充実

- ①指導者の確保
- ②指導者の養成・資質向上
- ③組織的な競技力向上の推進



滋賀県の 競技力向上を 図るには！

トップアスリート育成



課題

- 各競技の強化活動を効果的に行う必要がある
- 滋賀県の自然環境を活かした競技種目の重点強化が有効
- 選手の競技活動を支える環境の整備が必要
- 県全体で競技選手を応援する機運の醸成

対策・取組

強化拠点の構築・環境の整備

- ①強化拠点の構築
- ②施設の整備・競技用具の充実
- ③医科学サポート体制の整備
- ④選手・指導者の参加体制の整備
- ⑤交流・連携の促進
- ⑥広報を通じた県民の機運醸成

